ISSN 1883－311X



林木育種情報

No.50
2026.7

百年つづく「森の国・木の街」の実現に貢献する林木育種事業

林木育種センター審議役　松本　純治

本年６月５日に新たな森林・林業基本計画が閣議決定されました。森林を守り育て、木を上手に長く使い、百年先の未来へつなぐという趣旨も含め、『百年つづく「森の国・木の街」へ』という副題が付けられています。基本計画を審議する林政審議会では、フリーアナウンサーの平井委員から「林業は本来、今いない人のために意思決定をしている非常に誠実で先進的な分野なので、その価値が言葉の設計によっても社会に届くようになることをメディアの立場として強く願っております。」との御意見[注)]がありました。当時、研究指導課長として審議会に出席していましたが、林木育種事業こそ、まさに「今いない人」も含めた多くの人たちの期待に応えることが求められる事業だと強く感じたことを覚えています（示唆に富む御意見がたくさんございましたので、議事録もぜひ御覧ください）。

さて、基本計画では目標のほかに、その達成に向けた施策の有効性を示すための成果指標（KPI）を設定し、PDCAによる施策の見直しに活用することとしています。林木育種事業と関わりが深いものとして「花粉の少ないスギ苗木の生産割合：６割（令和６年度）→８割（令和12年度）」がありますが、「人工造林面積：3.5万ha（令和６年度）→4.5万ha（令和12年度）」や「省力・低コスト造林の実施面積割合：60％（令和６年度）→86％（令和12年度）」の達成に向けても、成長が早い品種の開発などニーズに応じた品種の開発・普及を進めていく必要があります。また中長期的には、「生物多様性を高める森林づくりが行われている森林の面積割合」、「林業従事者の所得水準」、「木造住宅等における国産材率」、「木質系新素材の国産材利用量」といった様々な視点も持ちつつ林木育種事業を進めていくことが重要です。

このため基本計画においては、気候等の環境変動対策の高度化と森林の有する多面的機能の発揮に向けた研究開発や、多様で持続的な森林の造成や利用に貢献する林木育種等を戦略的かつ計画的に進めることとしています。特に再造林等の推進については、優良種苗の安定的な供給に向け、花粉の少ない苗木や成長等に優れた特定苗木の生産・流通体制の整備とともに、林木遺伝資源の収集や保存、第３世代精英樹等の品種や育種技術の開発等を進めることとしています。また、ゲノム情報を活用した品種開発や細胞増殖技術を活用した苗木生産の高度化に取り組むとともに、森林病虫害対策について、第２世代の抵抗性マツの開発と原種苗木の普及を促進するとしています。

これからも関係者の皆様とともに、森林・林業・木材産業の好循環を生み出し、百年つづく「森の国・木の街」の実現に貢献する取組を進めて参ります。

注）第224回林政審議会議事速記録
https://www.rinya.maff.go.jp/j/rinsei/singikai/attach/pdf/index-94.pdf

【紙面紹介】

スギの実生苗とさし木苗の特性は
　植栽環境によって異なる……2
ヒノキの成長と生存率
　－優良系統の選抜の可能性－……3
特定母樹の指定・配布状況について……4
林木遺伝子銀行110番－令和７年度の取組－……5
チャンチンの増殖と試験地造成に取り組む……6
スギ培養細胞リソース由来の苗木の植栽試験１年…7
令和７年度林木育種成果発表会を開催……8

国立研究開発法人　森林研究・整備機構
森林総合研究所林木育種センター
Forest Tree Breeding Center,　Forestry and Forest Products Research Institute